

認知症診断 助成制度が始まりました!

認知症『神戸モデル』
2019年1月28日スタート!

65歳以上の
神戸市民
無料

早期発見のために、ぜひ一度検診を受けましょう。

まずは受診券を申し込んでください。

※申込用紙は、実施医療機関、あんしんすこやかセンターにて配布しています。

- 受診券の申し込み方法/下記のいずれかの方法で、①氏名 ②性別 ③生年月日 ④住所 ⑤電話番号をご連絡ください。対象者であることを確認の上、後日、受診券を郵送します。
- 電話での申し込み⇒神戸市総合コールセンター TEL:078-333-3330(年中無休 9:00~21:00)
- 郵送・FAXでの申し込み⇒郵送の場合〒650-8570(住所不要)神戸市介護保険課 診断助成の係/FAXの場合078-322-6047
- インターネットでの申し込み(制度の詳細)⇒ [神戸市 認知症診断](#)

第1段階 認知機能検診

- 認知症の疑いが「ある」か「ない」かを診るために検診です。
- 六甲アイランド甲南病院で受診できます(完全予約制)。
- 地域の医療機関に受診券を持参し、受診してください(要電話予約)。



認知症の疑い「あり」の場合、専門の医療機関をご案内します

第2段階 認知機能 精密検査

- 認知症かどうかと、軽度認知障害(MCI)も含めて、病名の診断を行います。
 - 地域の専門医療機関にて受診してください(要電話予約)。
 - 甲南医療センター内 神戸市認知症疾患医療センターで受診できます(かかりつけ医の紹介状必須)。
- ※保険診療の自己負担分をいったん医療機関へ支払い⇒後日返金(要申請)

認知症と診断された場合、**無料で「4つの安心」**が受けられます

認知症と「診断されなかった」場合
1年後の受診を推奨します

事故救済
制度
「4つの安心」

1 賠償責任
保険
最高2億円の
賠償責任保険への加入

2 コール
センター
24時間
365日対応

3 GPS
かけつけサービス
※一部有料

4 見舞金
最高3,000万円
※全市民対象

※2019年4月1日事業開始

認知症の鑑別診断・
ご相談は...

甲南医療センター 神戸市認知症疾患医療センター

[直通電話] 078-857-8720 (平日 9:00~12:00/13:00~16:30)

※完全予約制です。初診のご予約には、かかりつけ医の紹介状が必要です。
神戸市認知症健診(第1段階)の医療機関から精密検査が必要と言われた方も予約可能です。



甲南医療センター

〒658-0064 兵庫県神戸市東灘区鴨子ヶ原1-5-16
TEL:078-851-2161(病院代表)
TEL:078-854-4370(患者サポートセンター)



六甲アイランド甲南病院

〒658-0032 兵庫県神戸市東灘区向洋町中2-11
TEL:078-858-1111(病院代表)
TEL:078-858-2322(患者サポートセンター)



公益財団法人 甲南会 甲南医療センター / 六甲アイランド甲南病院

「地域の皆様と心を通わす」

甲南通信



2020
October
No. 17

[特集シリーズ]

—縁の下の力持ち—

Unsung Heroes

アンサング・ヒーローズ

『episode1:看護部 / episode2:中央放射線部』



各診療科を横断、統合するコンダクター 糖尿病外来・糖尿病センター

新型コロナウイルス感染症対策 —第2波を受け、これからの季節に向けて—



隠された病気の原因を探り、予防と治療を実現

各診療科を横断、統合するコンダクター 糖尿病外来・糖尿病センター



血糖高値が慢性的に続くと糖尿病性合併症が進行します。三大合併症（神経障害・網膜症・腎症）や、動脈硬化による心筋梗塞、脳梗塞、末梢動脈疾患、足の壊疽、歯周病等々。当院では糖尿病内科での厳格な血糖コントロールを行うだけでなく、複数の診療科と連携をとりこれらのような合併症に対してきめ細かな対応をしています。これだけ多くの診療科の協力のもとで充実した糖尿病診療ができるのは当院の強みであり、さまざまな合併症予防・治療が可能になっています。



山田 浩幸
副院長兼糖尿病センター長

糖尿病センター

(腎臓内科) 糖尿病 腎症



糖尿病腎症は、早期には微量アルブミン尿（第2期）、その後蛋白尿（第3期）が出現します。さらに腎機能が悪化していき（第4期：腎不全期）、透析療法が必要になります（第5期）。早期腎症までは進行を遅らせることができるため、早期診断が大切です。

(歯科) (口腔外科) 歯周病



糖尿病では歯周病になりやすいだけでなく重症化する恐れがあります。また歯周病があると血糖コントロールが困難となります。歯周病予防のために口腔内チェックを行い、適切なブラッシング指導を行っています。

(脳神経内科) (脳神経外科) 脳梗塞



脳の血管が詰まると脳梗塞になります。頸動脈エコーでプラークや血管壁の厚さを評価したり、頭頸部MRIで血管の狭窄を把握することにより、病変の早期発見に努めています。

(産婦人科) 妊娠 糖尿病

「妊娠糖尿病」は健康な方が妊娠をきっかけに血糖値が高くなる病気です。高血糖は妊娠中毒症や胎児に影響を及ぼしやすくなるため、厳格な血糖コントロールが必要となります。当院は神戸市東灘区・灘区において分娩を取り扱っている唯一の総合病院であり、産科と協力して血糖コントロールを行っています。



(循環器内科) 動脈硬化 心不全

心臓の血管が動脈硬化で狭くなると、狭心症や心筋梗塞をひきおこします。糖尿病では神経障害の影響で胸痛などの症状がないまま病状が進行して、心不全や不整脈をおこしやすくなります。そのため定期的に心電図・胸部レントゲン・心エコー・トレッドミルなどの運動負荷検査をおこない、疑わしい場合にはさらに精査を行い、病変の早期発見に努めています。末梢動脈疾患は足の動脈が動脈硬化で狭くなる病気です。血圧脈波検査で血管の硬さや動脈硬化の程度を調べ、早期診断に努めています。



(形成外科) 壊 疽

神経障害があると足に傷ができて痛みがなく発見が遅れ、潰瘍を作ってしまいます。さらに、末梢動脈疾患を併存していると血流が悪くなり、潰瘍が治りにくくなり壊疽をおこしてしまいます。当院形成外科ではフットケア外来で、糖尿病足病変予防に努めています。



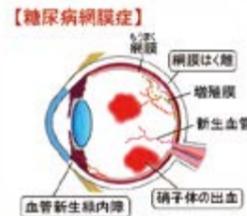
(皮膚科) 足潰瘍

血糖が高いと足白癬や爪白癬になりやすく、重症化し足潰瘍をおこします。早期介入し爪処置も行い、足潰瘍予防に努めています。



(眼科) 糖尿病 網膜症

糖尿病網膜症は網膜の血管に障害がおこり、単純網膜症・増殖前網膜症・増殖網膜症と進行します。進行すると視力低下や失明する恐れがあります。糖尿病と診断されたときから定期的に眼底検査を受けることにより進行を防ぐことができます。



(小児科) 小児 糖尿病

小児糖尿病は小児科と連携をとり血糖コントロールを行っています。



多職種で治療をサポート



糖尿病センターの取り組み

糖尿病診療では複数の職種による連携すなわちチーム医療が重要となります。当院では、糖尿病指導医・専門医3名を中心に、看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・臨床検査技師・公認心理師などからなる糖尿病チームで患者さまをサポートしています。現在当院には糖尿病療養指導士は7名在籍しており、多職種で連携し活動しています。



▲糖尿病ミーティングの様子

糖尿病教育入院

血糖コントロールを行いながら、看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・臨床検査技師が個別性を重視した療養指導・援助を行っています。公認心理師が患者さまのお気持ちに寄り添い、心理的支援も行っています。

栄養指導

食事療養は糖尿病治療の基本となります。管理栄養士が患者さまの病状や生活スタイルに応じて、個別指導を行っています。



糖尿病透析予防指導

合併症である糖尿病腎症による透析を予防するために、医師・看護師・管理栄養士が連携して重点的にサポートしています。



薬剤指導

内服薬だけでなくインスリンやGLP1製剤の注射剤の外来導入を含め、薬剤師が患者さまに治療効果や副作用の有無などを確認し、安心して治療を受けられるよう説明しています。



運動療法

入院中の患者さまには、理学療法士が運動療法のサポートを行っています。



糖尿病療養指導

外来看護師が患者さまの療養生活全般をサポートしています。患者さまが持つ療養生活での不安や疑問などを一緒に考え、より良い方法を見つけようとするための支援をしています。初めて糖尿病と診断された方への説明や血糖自己測定指導および糖尿病足病変予防のためのフットケアも行っています。



新型コロナウイルス感染症

～その後の対策、第2波と夏を迎えて～



3月に発熱接触者外来を開設して以降、新型コロナウイルス感染症(COVID19)への感染を心配される方々の相談や診療を行ったり、地域のクリニックや保健所からのCOVID19感染を疑う症例の紹介受診に対応しています。救急外来では、発熱患者を断ることなく受け入れています。今回のCOVID19発生以降は、新しいウイルスに関する情報収集や保健所との連絡・調整、院内への情報周知と教育、感染対策の方針検討を行う必要がある為、通常のICTメンバーとは別に、院長任命によるコロナICTを結成し、感染防止対策の活動を続けています。

▲コロナICTミーティングの様子



5月下旬～6月：感染流行小康期

この小康期の期間、コロナICTは、第二波に備えて、熱中症と肺炎、その他の発熱を伴う患者との混在による救急外来の多忙さを予測し、発熱症例のふるい分け方法を検討し方策を立案したり、院内でのCOVID19検査体制の強化について検査部と模索・検討しました。

7月：感染流行第2波

7月中旬、当院で第1例目となる入院患者でのCOVID19陽性症例が発生しました。発生同日中に、保健所の直接指導・介入の下、接触者のふるい分けをし、その中から検査対象者と健康観察者のふるい分け、検査対象者へのPCR検査の実施、陽性者が関連した環境消毒の徹底、職員感染対策の再確認と徹底を実施しました。本件に関連した接触者を対象としたPCR検査は対象者全員の陰性を確認しました。これは、現場での感染対策の実践努力の成果です。ICTとして感染拡大なしの結果に胸をなでおろしました。その後も、当院は発熱患者を断らない救急を継続しています。第二波と呼ばれる7月以降、数件の陽性例を個室管理の上感染対策を徹底強化し、感染症指定医療機関への転院対応を実施しています。



移動式陰圧室

8月以降：猛暑の夏を迎えて

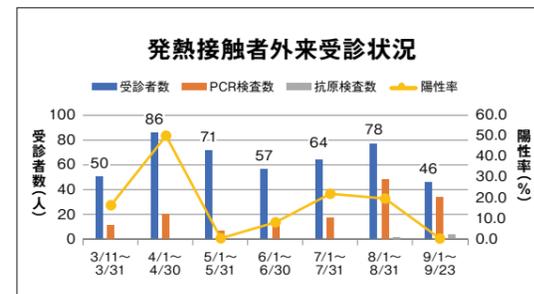
8月は、これまでに備えてきた熱中症とCOVID19疑いとふるい分けを実践する時期でした。発熱や倦怠感を主な症状とする場合は、熱中症とCOVID19との判断が難しくなります。ICTは、COVID19疑い例の入院数の増加に対応でき、症状のふるい分けが少しでも早くなるよう、検査体制の拡充に向けた情報収集と検査部との調整に奔走しました。

PCR検査は、検査機器の対応容量が限られているため、手術前症例に適用することで調整を進めました(表1)。抗原検査は、法人内の感染対策部門・検査部門とで適応方法について議論を重ねその結果、当院では救急外来でCOVID19を疑う症状を認めるものの、医師が入院治療や精密検査が必要と認めた症例については抗原検査を実施した上で入院調整をしました。病棟に入院する前には検査を行うことでCOVID19感染の有無が確認でき、院内への持ち込み予防策としました。ICTでは、インフルエンザの流行シーズンを迎える前にPCR検査の拡充の必要性を考え、検査部門と話し合い、外部委託による唾液PCR検査を整備しました。唾液による検査は、患者さん自身がサラサラの唾液を採って提出することが必要なため、発熱接触者外来での実施としました。

COVID19に関する様々な検査方法を導入する中、検査への理解も深めてもらおうと、ICTニュースでは検査方法の特集を組み、職員への情報提供も進めています。



9月以降は、インフルエンザとCOVID19の共存シーズンに向け、「かからない・うつさない」ための対策として、職員に向けた繰り返しの感染防止の案内配信や職員が発熱した際の早期対応の体制確立、感染防止に必要な設備の見直しと整備、感染防護用具の着脱講習会の開催など、これまでと同様の対応策を実践しています。



当院でのCOVID19検査体制 (表1)

3月～7月	
〈対応検査〉	〈適応〉
行政PCR検査【検体】鼻咽頭拭い液	救急搬送症例、発熱接触者外来受診患者
8月以降	
〈対応検査〉	〈適応〉
院内PCR検査【検体】鼻咽頭拭い液	耳鼻科・口腔外科の手術前検査 入院中の発熱持続症例
院内抗原検査【検体】鼻咽頭拭い液	救急搬送のうち入院が必要な発熱症例
外部委託PCR検査【検体】唾液	発熱接触者外来受診患者
行政PCR検査【検体】鼻咽頭拭い液	発熱接触者外来受診患者のうち、 COVID19濃厚接触者(保健所紹介)

XXXXXXXXXXXXXXXX - 縁の下の力持ち - XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

Unsung Heroes

アンサング・ヒーローズ

episode
1

< 甲南医療センターの医療の質を支える人々 >

一 治療を支える看護部 一

思いやりの
心を込めて
相手に接することが
看護の基本です

甲南医療センター 看護部長 堀口 美由紀

今年度、甲南会の元統括看護部長が日本看護協会会長賞を受賞しました。看護管理の質の向上に寄与した功績が認められてのことです。役職を退いた現在も、看護人事採用センター長として看護部を支え続けてくれています。まさに縁の下の力持ちです。過去にも歴代の看護部長たちがその功績を認められ表彰を受けています。年を重ねるごとに、他者から褒められることも少なく表彰されることなどほとんどありません。スポーツなどの世界では、その日頑張れば表彰台に上がれることもあります(それまでの血のにじむような努力があるからこそその1日ですが…)

看護の世界での表彰は長年の積み重ねと地道な活動の功績に他なりません。

甲南会看護部はこのような、看護を愛する先輩方の地道な活動のもとに今があります。甲南病院から甲南医療センターとなり、もうすぐ1年を迎えます。病院の役割や機能が変わっても、私たちのやるべきことは変わりません。甲南医療センターの看護部のスローガンは「思いやりの心、深い知識、確かな技術をもって信頼される看護をすべての人に…」です。これを実現するために必要なことは「思いやりの心を持った看護師の育成」と「学び続ける力」だと考えます。

まず、「思いやりの心」を持った看護師の育成のために大切なことは、hospitality mindの醸成だと思います。ホスピタリティ(hospitality)の語源は、「客人の保護者」という意味を持つラテン語のホスピス(hospes)であり、「hospital=病院」はそこから派生したとされています。「ホスピス」とは昔、巡礼などに旅立った人が途中で病気や飢えで倒れた際にその土地の修道院で看護を行うことを指す言葉でした。体調を崩した人の手当てをすることを総称して「ホスピス」と呼んでいた歴史的背景から、「心を込めた厚意」「手厚い看護」などの意味が転じて「おもてなし」となったのが「hospitality」とされています。つまり、ホスピタリティは看護の心そのものです。さらに日本語の「接遇」の2文字はどちらも「もてなす」(接す・遇す)と読まれます。医療の現場(hospital)において、思いやりの心をこめて相手に接すること「もてなす心」が看護の基本だということになります。

そして、知識と技術の向上のために必要なのが「学び続ける力」とそれを支援する教育体制だと考えます。甲南会には「看護支援センター」と「看護研修センター」があります。看護研修センターでは甲南会看護部の全体研修を企画・運営し、新人教育から継続教育・シミュレーショントレーニングなど、現場のニーズに沿った研修を行っています。看護支援センターには専門看護師1名と16名の認定看護師が在籍し、そのうち12名(9分野)が甲南医療センターで活動しています。看護支援センターのスペシャリストたちはそれぞれの分野で、患者さんにより良い看護が提供できるよう自らの看護実践だけでなく、スタッフに対し座学での教育やOJT(on-The-job Training=現場での実地教育訓練)を行っています。

私たちは、学べる環境が整った中で常に研鑽し成長し続けると共に、日々hospitality mindを大切に「ここに来てよかった」とすべての方に思ってもらえるような看護部にしていきたいと考えています。



>>> 兵庫県看護功労賞を受賞して

六甲アイランド甲南病院 看護部長 立部 巴



甲南病院の時から現在に至るまでの40年間勤務し、阪神大震災では患者さんの看護にあたりました。2017年度からは地域包括ケアシステムの先駆的な取り組みとして、甲南・六甲2病院の統合を看護部長としてリーダーシップを発揮してきたことが認められました。



この賞を受賞して約40年間の看護師としての活動を改めて振り返る機会となりました。何もできなかった新人時代に看護の基礎的技術だけでなく、看護の心を優しく・時に厳しく指導して頂き私の看護の軸が育成されたと先輩や先生方にお礼申し上げます。また阪神大震災での体験は、大きな影響がありました。自分も被災者でありながら夢中で病院に駆けつけ、若いスタッフの顔を見て安堵したこと。電気も水もない現場、医療物資もすぐに底をつき、あるもので何とか工夫をして医療・看護をチームで提供できたこと、全国からボランティアや医療・日用品の物資の支援を受けて乗り切ったことなど、多くが今につながっていると感じます。看護師として継続できた職場の皆様に感謝し、今後も努力していきたいと思っています。

>>> 日本看護協会会長賞 受賞!

甲南会事務局看護部 青木 節子



40年間、日本看護協会の会員として活動を行い、また5年間に渡り、兵庫県看護協会東部支部の支部長と言う役割を担い、地域に貢献してきました。また、全国の看護管理者への教育として、これまで12都道府県で看護管理者研修の講師として、看護管理の質の向上に尽力してきたことが認められました。

この度は、「日本看護協会会長表彰」を頂戴し、光栄に思います。看護師として40年目を迎える、2020年に受賞の知らせを頂き改めてその歳月を実感いたしました。この賞は、私個人の力ではなく、これまで、私を指導してくださった、甲南会の皆様と、私を支えてくださった兵庫県看護協会神戸東部支部の看護職の皆様のお陰であると実感しています。今後も、甲南医療センターでの看護活動を通して、微力ではありますが、地域の皆様に貢献していきたいと思っています。この度は、本当にありがとうございます。



>>> 事務職員としての特技で貢献

事務局看護人事採用センター 主任 多田 亜弥



病院の仕事というと、患者さんに直接かかわる医師、看護師、コメディカルの皆さんにスポットが当たがちですが、実際は医療職の人たちがより良い仕事ができるよう、事務職やその他大勢の人がいて成り立っています。私は看護人事採用センターという部署で主に新人看護師の採用に伴う業務を行っています。

看護学生さんからの問い合わせや資料請求、病院見学会、インターンシップの窓口業務、また採用試験全般、それ以外にも看護部HPの管理、パンフレットの作成、内定者の会の企画・開催や、学校訪問、合同就職説明会といった多岐にわたる業務があります。毎年、年間約250人の病院見学や約130人の採用試験は、時期が重なることもあり、大変忙しくなります。また、今年は新型コロナウイルス(COVID-19)の影響で、インターンシップや学校訪問が中止となりました。看護人事採用センターでも、外出できない看護学生さんを対象に、早期にWEB面接やWEB説明会を導入し、対応しました。このような中、改めて周囲を見渡すと、院内では感染対策チームを中心に新型コロナウイルス(COVID-19)の院内感染の防止に奔走し、鳴り止まないコロナの電話相談、発熱外来での検体採取、日々のデータのとりまとめ等多くの業務に対応し、感染防止対策室は遅くまで灯りがついていました。当時、感染防止対策室には事務職員がおらず、医療職者が交代で事務処理等を行っているということを知りました。病院からの依頼を受け、甲南会で事務職員としてこれまで培ってきたPCスキルを他部門でも活かし、貢献していきたいという気持ちで現在採用業務と並行して、感染防止対策室での業務にも取り組んでいます。また、2020年12月に甲南医療センターは病院機能評価を受けます。機能評価のコアメンバーからの依頼で、スマートフォンを利用したアンケート調査の作成なども担当させていただいています。病院の運営には、多くの人の力が必要です。それぞれが自分の特技を駆使して組織に貢献することが、組織の成長に繋がるとを日々実感しています。

XXXXXXXXXXXX - 緑の下の力持ち - XXXXXXXXXXXXXXX

Unsung Heroes

アンサング・ヒーローズ

episode
2

< 甲南医療センターの医療の質を支える人々 >

一 診療を支える中央放射線部

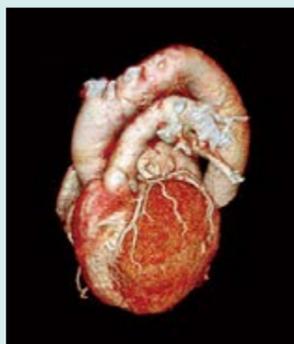
甲南医療センターは、昨年10月より急性期病院として神戸市東灘を中心に地域医療を担うため新たに生まれ変わりました。その急性期疾患に不可欠な**画像診断**は、体の外からは見ることができない病変の存在(存在診断)や広がりや把握(病期診断)や良悪性の判断(質的診断)を目的に、**治療方針の決定や治療効果判定に必要**とされます。私どもの所属する中央放射線部は、最新の画像診断機器を導入し高度先端医療を行うため画像検査に携わり、画像診断の補助となる病変の把握に有効な3次元構成画像や手術支援画像を作成し、的確な画像情報を医師に提供しております。

一般撮影

最新鋭の間接および直接変換方式の**FPD(フラットパネルデテクター)撮影装置**を導入し、一般X線撮影装置3室、歯科領域X線撮影装置、乳房X線撮影装置、X線透視装置、骨密度測定装置を保有し、乳房についてはマンモグラフィ精度管理中央委員会の施設認定を受け、救急をはじめあらゆる疾患に対応しております。

CT撮影

CT検査室は最新鋭の**64列MDCT2台**を備え、**頭部3DCT**や心臓、大腸CTなど先端医療を提供するとともに、緊急検査にも迅速に対応し、当院のCTは地域医療に特に重要な役割を果たしひと月約2000件前後の検査を担っております。



心臓CT



大腸CT

MRI撮影

MRI検査室では、**1.5Tおよび3TのMRI装置を新規2台**導入しています。MRI検査は強力な磁気を利用して体の臓器や血管などを撮影する検査で、特に脳や脊椎、心臓、腹部、骨盤領域、四肢領域などに生じた病変に対して優れた描出能があります。当センターならびに地域医療機関からの紹介でひと月約600件の検査の検査を行っています。

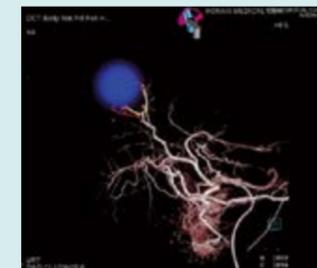


IVRセンター

血管撮影室では、2台の**パイプラインFPD搭載フルデジタル血管撮影装置**ならびに**IVR-CT装置**を備え、頭部・腹部・四肢血管撮影、心臓カテーテル検査、など、最近ではカテーテルを通して行うIVRが主体で、脳動脈瘤のコイル塞栓術、急性期脳梗塞血行再建術、心臓の不整脈に対するカテーテルアブレーション(心筋焼灼術)治療、冠動脈形成やステント留置、肝細胞がんに対しての肝動脈塞栓療法、透析シャントPTA(経皮経管的血管形成術)などを行っています。



IVR-CT装置



肝臓がんの血管内治療



脳動脈瘤の血管内治療

PETセンター

PETセンターは、**SPECT装置**ならびに**PET-CT装置**を保有し、画像診断のうち**核医学検査**を行う部門です。いずれの検査も、体内に投与した放射性医薬品が臓器や体内組織などに集まる様子を画像化し、病気・病型の診断、広がりや重症度の評価、治療効果の判定などに有用な情報として提供します。がん細胞は、正常な細胞に比べて活動が活発なため、3~8倍のブドウ糖を取り込むという特徴があります。PET検査は、その特徴を利用してたくさんブドウ糖を取り込んでいる細胞を探し、がんを発見します。



PET-CT装置



診療放射線技師によるPET検査

>>> 中央放射線部の取り組み

患者さんに安心、安全かつ精度の高い医療サービスを提供するため、先生方をはじめとするチーム医療の実践を図り、救急医療では脳卒中や心血管疾患や、胸腹部の急性疾患について24時間迅速に対応できる体制を整えています。

また、近隣の地域医療機関からの画像検査依頼にも積極的に対応し、また患者さんにやさしい画像検査を目指すことで甲南医療センターのアンサングとして頑張っています。



貸切バスで 快適な旅

安全

快適

親切

グループでの
パーティーや旅行に

会社での
見学・研修に

クラブでの
合宿・試合に

豊富なバリエーションで、あらゆるシーンに対応いたします。



マイクロバス

乗務員 1名
座席数 27
(内補助席 6)
トランク なし

中型送迎バス

乗務員 1名
座席数 44
(内補助席 7)
トランク なし

大型観光バス

乗務員 1名
座席数 53～56
(内補助席 8～10)
トランク あり

その他、ワゴン車タイプや大型送迎バスなどもございます。(いずれも運転手付き)



〒658-0031 神戸市東灘区向洋町東1丁目4
TEL:078-845-3710 FAX:078-845-3713
<http://www.kobe-minato.co.jp>

ご相談・お問合せ・お見積り

お客様窓口 078-845-3710

国土交通省制定「新運賃料金制度」に基づいた適正料金にて運行いたしております。

神戸老舗《萩原ブランド》を使用した
美味しいコーヒーの店

Ric Cafe!



六甲アイランドにお住まいの皆様、六甲アイランドに訪ねて来られた皆様が、ほっと一息つける温かみのある落ち着いた空間と、美味しいコーヒーやバラエティに富んだフード、デザートをご用意して皆様のお越しをお待ちしています。

※六甲アイランド甲南病院を利用されている方には診察券のご提示でドリンク 50円割引サービスを実施しています。



六甲アイランド シティモール (六甲アイランド甲南病院 2F出口から直ぐ)
Ric cafe リックカフェ AM7:30～PM6:00(年中無休)
〒658-0024 神戸市東灘区向洋町中2丁目11 TEL:078-811-7116



photo: 竹中工務店 大阪本店
執務空間に設置した「閃き階段」

ビルからひとへ

～ひとから発想し、成長し続けるオフィス～

竹中工務店は、「環境」に「ひと」の視点を加えた建築で「新たな価値創造と生産性向上」を目指し、本店リニューアルを行い、自ら実証実験を続けています。

想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA

<https://www.takenaka.co.jp/>

